



小学校外国語科先行実施 成果と課題

1月29日(火)に第2回外国語教育研究会が行われました。先行実施1年目がまもなく終わりますが、その成果と課題について討議されました。各校の先生方と町単独雇用の英語支援教員から出された意見(アンケート形式)と研究会で出された意見をまとめました。



成果と課題

児童にとって…楽しく、質の高い授業

「抵抗なく、日本との文化の違いを楽しみながら、外国語を楽しんでいる。」「町単の先生が、流ちょうな英語で、授業の流れを工夫しているので、楽しく英語の学習ができています。」「歌、フォニックス(※1)等、大変楽しそうに興味深く学習できている。」「ネイティブな先生(ALT)がいることで、正しい発音や言葉を知ることができてよい。」など、児童にとって外国語科の授業は楽しみとなっていることや、英語の正しい発音等が身につけていることを感じています。

教師にとって…見えてきた外国語科授業。研修の充実を

「教師は、外国語の授業の基本的な流れについて学ぶことができた。」「授業の中で教師が、英語の発音や、イントネーションに不安を感じていたが、分からない時に確認しながら授業を進めることができた。」など、5,6年の教師からは、発音の練習や授業の流れなどを学ぶことができたという声が多く聞かれました。他の教師の研修の必要性とその機会の確保の難しさが課題として出されました。また、「フラッシュカード・ゲーム作り・ワークシートの準備などを英語支援教員がすることで、教師の仕事が軽減されている。」のように英語支援教員の配置のメリットから、配置されない場合の大変さへの不安も多くありました。

「担任は支援の立場でも見ることもできるので、分からずに困っている児童のサポートにすばやく回ることができた。」のように指導者が多いことで有効な支援ができていることも挙げられていました。

英語支援教員にとって…工夫した授業の実施

「楽しい授業のプランニングにより児童が英語に興味を持つことができています。」「児童は、ハイバイソング(※1)を8曲歌えることでたくさんの英語表現を獲得できた。フォニックス(※2)を学習することで、大部分の児童が単語や文を読めるようになってきた。」など、内容や流れの工夫により、児童の英語力が培われてきていることを実感していることが伺えます。



(※1)ハイバイソング…子どもの生活に密着した基本表現を、歌いながらフレーズとジェスチャーで丸ごと覚えるもの

(※2)フォニックス…綴り字と発音との間に規則性を明示し、正しい読み方の学習を容易にさせる方法の一つ

(裏面に続く)

体制・運営等・・・英語支援教員の継続配置を。小中の連携

英語支援教員が全ての学校に配置され、また事前に細かな打ち合わせがなされていることにより町内のどの学校も質の高い授業がなされていることのすばらしさと感謝の声と同時に、本格実施後の体制についての英語支援教員の継続配置の強い要望が多数ありました。しかし、現時点では本格実施までの措置ですので、研修の充実による英語授業力の向上が喫緊の課題です。

それに併せて富士河口湖町の外国語教育・外国語科をどのように進めていくのかの見通しの必要性も出されました。また、複数校兼務の関係による時間割調整の難しさも出されました。

英語のネイティブスピーカーのALTが外国語科の授業に入っているときといないときがあるので、全ての授業に入ってほしいという要望もありました。

「小学校の英語の授業を楽しんでいる児童の思いを、児童の発達段階も加味して、どう維持していくかが課題だ。」「入門期の導入の仕方を生徒の様子を見ながらやっていくことが課題。」など中学校へのつながりの課題とそのための小中学校との連携の必要性も確認されました。

「実践 英語でインタビュー」



Where are you from?

What Japanese food do you like?

船津小学校 5年生
外国語科授業

ドキドキ

1月25日に、船津小学校5年生は、訪れた外国人に英語でインタビューするという活動を行いました。本町では、2020年度から始まる5、6年生の外国語科の授業を今年度より先行して実施しています。町独自の英語支援教員の配置により充実した外国語科の授業が行われていますが、その授業の一環で、実際に英語で会話する機会をつくろうと企画されたものです。当日、「外国人はいるだろうか」という心配は全く不要で、多くの外国人が駅舎の中外にいましたが、緊張で子どもたちはなかなかインタビューすることができず、やっと人が見つかってインタビューを開始したものの、声が小さくうまくやり取りできないというスタートでした。しかし、「だいじょうぶかな、できるかなと心配だったけれど、最後にはもっと話しかけていればよかったと思いました。」の感想にあるように、二人目、三人目となるにつれ、自信と勇気が出てきて、どんどんインタビューすることができるようになりました。質問したことが伝わり、話したことがわかったときのうれしそうな顔が印象的でした。下の児童の感想にあるように、緊張から始まった「英語でインタビュー」でしたが、徐々に慣れていくにしたがって伝わる喜び、つながる楽しさを感じることや、さらに、今後もっと進んで話していきたいという気持ちも伝わってきます。とても貴重な体験をした外国語科の授業でした。

「インタビューの練習をしたときは、しっかり外国人の人たちに伝わるか心配でした。でも、実際にインタビューをしてみて楽しかったです。」「最初は、話しかけるのも怖くて緊張したけれど、勇気を出して話してみると、みんな優しい人たちで、自分たちがゆっくりだったりタジタジだったりしても、しっかりと話を聞いてくれました。」「思ったよりも英語が通じて嬉しかったです。私のお店では外国人がたくさん来ても、なかなか話そうとする勇気が出なかったけれど、今回の体験で外国人と話すことがとても楽しくなりました。これからは、英語を使って話してみたいです。」「この貴重な体験を生かし、世界の多くの人と交流を深めて、より日本と山梨と富士山を好きになってもらえたらいいなあと強く感じ、とても心に残りました。」